

発言者	発言者の概要
西田教育長	<p>引き続き、議案 第29号 「令和4年度に使用する中学校用教科用図書の採択」について議事を行う。</p> <p>まず、説明の前に、採択地区協議会の概要について、説明をお願いしたい。</p>
学校教育課長	<p>宮崎採択地区協議会の設置の目的は、義務教育諸学校の教科用図書無償措置に関する法律（いわゆる無償措置法）第13条第4項に基づき、宮崎市、綾町、国富町を併せた宮崎採択地区内の市町立小中学校で使用する教科用図書について、種目ごとに同一の教科用図書を採択するため協議するものである。</p> <p>宮崎採択地区協議会の構成員は、1市2町の教育長、教育委員代表と宮崎市・綾町・国富町の保護者代表各1名の計9名である。</p> <p>今年度は、令和4年度から使用される中学校用の社会科歴史的分野の教科用図書採択のために、第1回を6月2日、第2回を7月16日に、宮崎市教育情報研修センターにて行われた。</p> <p>16日の第2回宮崎採択地区協議会においては、投票により選定する教科用図書を決定している。</p> <p>採択地区協議会は、種目ごとに同一の教科用図書を採択するために設置されるが、採択権は、市町教育委員会にあるので、採択地区協議会が選定した教科用図書について、市町教育委員会の同意が得られなかった場合には、協議会は再協議を行うこと、市町教育委員会は、その再協議の場に、理由を明確に記した報告書を作成して提出すること、再協議の結果については、市町教育委員会はこれに従うものと定められている。</p> <p>採択地区協議会の説明は、以上である。</p>
西田教育長	<p>それでは、令和4年度に使用する中学校用教科用図書（社会科歴史的分野）の採択について説明をお願いしたい。</p>
学校教育課長	<p>本年度3月の文部科学省初等中等教育局の通知文により、中学校用教科用図書については、新たに発行されることとなった「自由社」を加え採択を行うことが可能とされているため、新たに調査研究を行うこととなった。</p> <p>中学校用教科用図書については、社会科歴史的分野の採択について審議をお願いしたい。</p>
西田教育長	<p>それでは、各教科の審議に入る。</p> <p>社会科歴史的分野について、宮崎採択地区協議会では「日本文教出版」を選定しているが、担当の説明をお願いしたい。</p>

事務局職員	<p>歴史的分野について説明する。</p> <p>本地区の生徒の実態を見ると、よさとして、歴史上の人物やそれに関連する事象を調べることを好む生徒が多く、地理的分野や公民的分野よりも比較的関心が高いことが挙げられる。一方、課題としては、グラフ等のさまざまな資料に基づいて、歴史的な事象を多面的に考察したり、自分のことばでまとめ、表現したりすることを苦手としていることが挙げられる。</p> <p>このようなことから、本地区においては、「日本文教出版」の教科用図書が適切であると判断された。</p> <p>その特色について説明する。</p> <p>構成・配列の工夫については、見開きで学習課題が設定され、手がかりとなる「見方・考え方」「深めよう」などを基に追究し、最後に、学習内容の理解を確かめる「確認」コーナーに取り組めるような工夫が見られる。</p> <p>内容や指導の充実については、「知識・技能」を習得するために、「スキルアップ」で、系図の見方などを身に付ける工夫が見られる。</p> <p>利便性については、生徒が学習しやすくするために、各単元の見出しやインデックス、ページを示す箇所の色を統一する工夫が見られる。</p> <p>説明は以上である。</p>
西田教育長	<p>ただ今の説明について質問や意見があれば伺いたい。</p>
柳田委員	<p>グラフなどの資料が掲載されることは、どのような良さがあるのか。</p>
事務局職員	<p>江戸時代で例えるなら、人口が増加することと、耕地面積の広がりや米が多く取れるようになったことを関連付けて考える際に、なぜそのような状況になったのかを、グラフや資料などをもとに思考させる。人口の増加が分かるグラフなどの資料が多く掲載されていることは、根拠を明確にしながら生徒が課題解決的な学習を行う上で重要である。</p>
畠山委員	<p>視覚的な工夫が大切だと考える。QRコードには、どのような内容が掲載されているか。</p>
事務局職員	<p>日本文教出版の教科用図書においては、目次のところにQRコードが付いており、生徒がタブレット端末を活用して見ることができる。QRコードの中には、ワークシートやデジタルコンテンツが入っている。全ての単元で活用できるわけではないが、ポイントごとに動画を活用しながら指導することができる。</p>

今門委員	年表の提示の仕方について「日本文教出版」が内容、質ともに適当だと感じたが、どう考えているか。
事務局職員	生徒の実態を考慮し、どこまで詳しく載せるかは難しいところである。「日本文教出版」の年表は日本の内容だけではなく、世界の年表も見やすく掲載され、日本と世界の歴史と比較して考えることができるものであった。
片山委員	社会科の学習は難しいと感じていた。しかし、説明を聞き、「日本文教出版」の教科用図書を見ると、授業の流れが分かりやすく、「確認コーナー」などで定着もでき、生徒が主体的に学ぶことができると感じた。
西田教育長	質問がなければ決議する。 社会科歴史的分野の教科用図書は「日本文教出版」でよろしいか。
全委員	(異議なし) 異議がないのでこれを採択する。 他に質問はないか。他になければ、議案第29号「令和4年度に使用する中学校用教科用図書の採択」について、ご承認いただけるか。
全委員	(異議なし)
西田教育長	議案第29号は承認された。 以上で、第7回教育委員会定例会を終了する。